

あの・なはん

No.74

あの・なはん 盛岡弁で「あのねえ」と呼び掛けることば

「あの・なはん」はボランティアの「あの・なはん編集委員会」が編集しています。担当：男女参画国際課 ☎626-7525

ワーク・ライフ・バランスはみんなの願い ～仕事と生活の調和～

ワーク・ライフ・バランスという言葉聞いたことがありますか。仕事も暮らしも大切にしたいと望む人が増えています。企業でも働きやすい職場づくりの取り組みが始まっています。企業と働く人の両方から、ワーク・ライフ・バランスについて考えてみました。

◎生活の充実が仕事の活力源

ワーク・ライフ・バランスとは、仕事と家庭や地域活動、趣味や学習などを、自分が希望するバランスで活動できる状態をいいます。

仕事とプライベートをバランスよく過ごすことで、仕事にも集中でき、持っている能力を発揮できます。企業にとっても、人材確保や業績などに良い結果をもたらします。



しかし現状は・・・

- ・長時間労働、低賃金
- ・一家だんらんの時間が取れない
- ・自分の時間が取れない
- ・健康に不安がある
- ・雇用不安
- ・二人で働かないと経済的に子どもを育てられない

現状を 変えるためには

- 働きやすい制度（長時間労働の見直し、子育て支援など）を
- ・企業全体で整える
 - ・トップが理解し、推進する
 - ・社員が利用できる職場環境づくり
- などが必要です。

◎働きやすい環境を推進する企業

県は、仕事と子育ての両立や働き方の見直しによって、男女がともに働きやすい職場づくりに協力している「いわて子育てにやさしい企業」を認証しています。市内の4企業を紹介します。皆さんの企業でもできることから取り組んでみませんか。

男女とも働きやすい職場づくり

株式会社平金商店
従業員107人（女49人・男58人）

子育てサービス利用費援助の実施

小学6年までの子を養育する従業員を対象に援助。短時間勤務制度の対象範囲を、小学校就学前の子を養育する従業員に拡大している。

職員が一丸となった取り組み

社団医療法人盛岡繋温泉病院
従業員189人（女139人・男50人）

年次有給休暇の取得促進

休暇の単位を、半日または時間として休暇を取りやすくし、定時に帰るために職場風土改革事業に取り組む。小学校就学前の子を持つ職員全員に保育手当を支給している。

働き方を変えると組織は強くなる

IGRいわて銀河鉄道株式会社
従業員195人（女14人・男181人）

年次有給休暇の取得促進

休暇の単位を、1日または半日として、休暇を取りやすくしている。出産祝金制度を創設し、「育児休業期間を最長3年間」に改定している。

安心して制度利用ができる環境づくり

川口印刷工業株式会社
従業員213人（女56人・男157人）

子育て支援の充実

育児・介護休業法を上回る「育児のための勤務時間の短縮」などを計画し、従業員が子育てしやすい雇用環境の整備に取り組んでいる。

◎わたしのワーク・ライフ・バランス

若い世代は、どのように暮らしているのでしょうか。
30代の2児のパパと、20代の働く女性に、仕事と生活について聞いてみました。

働きやすさは周りの理解



川嶋印刷(株)盛岡支社勤務
小笠原雄大さん 東仙北一

看護休暇を利用しています

会社は、子育て支援やエコ対策に積極的に取り組んでいて、育児休業制度もあります。年間5日間の看護休暇は有効に利用しています。技術系という仕事柄、ある程度自分の裁量で段取りを組めることもあり、子どもを病院に連れて行くときなど、時間休を利用できて、助かります。

制度があっても上司の理解が大事

職場の雰囲気も良く、休暇が取りやすい環境にあります。会社に子育て支援などの制度があっても、それを実際に利用するには、上司の考えや周囲の人の理解と協力が大事だと思います。上司が率先して利用してくれると、周りも取りやすくなります。

土・日曜は家族と過ごします

平日は帰宅が遅いので、家族と一緒の食事や子どもたちと触れ合う時間がなかなか取れません。その分、土・日曜は家族と目いっぱい過ごします。わたしは絵を描くことが好きで個展を開きます。そのときの収益は、福祉団体などに寄付しています。妻は裁縫や日曜大工が得意です。親たちが楽しそうに何かやっている傍らで、子どもたちは手伝ったり眺めたりしています。

女性も仕事を続けてほしい

妻も正規雇用で仕事をしています。わたしは、女性も仕事を続けてほしいと思っています。経済的な問題もありますが、考え方や見聞を広めるためにも、仕事をしてほしいです。家事や育児など妻の負担が大きいため、できるだけことは協力しています。男性も家事や育児の大変さを知る必要があると思います。



ほのぼのとした小笠原さんの作品(ポストカード)

週末はヨガでリフレッシュ

仕事にハリがでます

奥州市の出身ですが、専門学校で取得した経理の資格を生かしたいと思い、盛岡に就職しました。職場には、同年代の人がいなかったの、中央通勤労青少年ホーム※(青少年ホーム)の会員になりました。仕事を終えて青少年ホームに行くのは忙しいですが、次の予定があると思うと、仕事をテキパキと片付けるようになりました。定時に帰っても何も言われません。決算期などの忙しいときは、わたしも残業します。



中央通勤労青少年ホーム会員
村上明美さん 津志田西一

友人が増えて世界が広がりました

週末は、青少年ホームで知り合った人たちと誘い合って、アイーナやマリオスなどで開かれるエコや国際交流の講座に参加しています。わたしとは趣味も仕事も違いますが、自分磨きに積極的な人が多いのでとてもよい刺激をもらっています。コーチングや青年海外協力隊にも関心を持つようになりました。友人が増えて、余暇を充実して過ごせていると思います。

クラブ活動で気持ちを切り替えています

今は「洋裁」と「ヨガ」のクラブに入っていて、週2日のペースはちょうどいいです。

す。青少年ホームに行くことで気持ちの切り替えが早くできますし、年齢が違っても気の合う人と話をするのは楽しいです。金曜のヨガは一週間の疲れが取れて、とても気持ちがいいです。

※中央通勤労青少年ホーム

働く若者のための施設。各種の相談、指導を行うほか、スポーツやレクリエーション、文化教養など健全な余暇活動の場を提供しています。利用条件は、35歳までの勤労青少年です。
住所：中央通三丁目11-15 ☎・ファクス623-2701

「あの・なはん」編集員を募集します

【任期】 4月から1年間

【内容】 あの・なはんの企画や取材、記事編集

【対象】 ①市内在住の18歳以上②毎週水曜の日中にボランティアで活動できる③男女共同参画に関心がある——のすべてに該当する人(イラストや写真が得意な人歓迎)

【定員】 10人

【活動場所】 プラザおでって5階
もりおか女性センター本館(中ノ橋通一)

【申し込み】 市役所若園町分庁舎2階の男女参画国際課や、もりおか女性センター本館・別館などに備え付けの用紙に必要事項を記入し、3月19日(木)、17時までに男女参画国際課に持参ください。応募多数の場合は選考

【問い合わせ】 男女参画国際課 ☎626-7525

こちら編集室

今、正規、非正規にかかわらず労働者の突然の解雇や採用内定取り消しなど、雇用の不安が広がっています。この状況で、ワーク・ライフ・バランスを話題にするのは現実離れと思えるかもしれません。

しかし、このような時代だからこそ、男女が安心して働ける仕事と職場が求められています。仕事を続けながら、スキルアップしたい、家庭や地域にかかわりたいなどのワーク・ライフ・バランスの実現に取り組む企業が増えてほしいと願います。経営者も働く人も現状を見直し、働きがいのある新たな職場環境をつくっていく、今がそのチャンスではないでしょうか。